



目次

1. 子どもの日のパレード～自由と権利を求めて～
in パレスチナ・東エルサレムYMCA
2. 「ピースワーク・プログラム」の参加者、再び集まる
in ヨーロッパ
3. ユースが「ポスト 2015 年開発アジェンダ」の
政策担当者に提言
in イギリス Y Care International

日本 YMCA 同盟
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7番
03-5367-6640

子どもの日のパレード～自由と権利を求めて～

2015年3月15日 東エルサレム YMCA

東エルサレム YMCA のリハビリテーション・プログラムの一環として、パレスチナの子どもの日に合わせて、パレスチナの子ども達の自由と権利を守るための啓発活動のパレードが行われました。

このパレードは、イスラム孤児学校と協働で行われ、孤児学校の Abu Dis ユースクラブのマーチングバンドの演奏から始まりました。パレスチナの子ども達が「自由に遊び、移動し、教育を受け、安全に暮らすこと」を主張しながら、約 200 人の子ども達がプラカードを掲げながらマーチングバンドと共に町中を行進しました。パレスチナの警察官も一緒に歩いて、子ども達の安全を見守りました。



町中を行進した後、孤児学校においてファタジアというエンターテイメント・グループによるお楽しみプログラムに参加しました。ピエロによる劇やコメディショー、マジックショーやダンスなど、約 2 時間に及ぶプログラムを大いに楽しみました。イスラム孤児学校、Ai-Awda 学校、Jeel-Al-Amal 学校から 600 名以上の子ども達が参加しました。イスラエルの支配下にあり、社会から疎外されている子ども達が自らの権利について学び意識を高めることを、このパレードの目的としています

Ibtisam Adileh さん(東エルサレム YMCA 心理社会プログラム担当)、Murad Suboh さん(イスラム孤児学校校長)、Taghreed Ghneim さん(東エルサレム YMCA リハビリプログラムカウンセラー)の



3 名は、心身ともに傷を負った子ども達にとって、純粋に楽しめるプログラムに参加することは心のケアにもつながるとして、その重要性を唱えています。Ai-Awda 学校の校長を務める Lina Ai Shamali さんは、プログラムに参加した子ども達の表情が明るくなったと話し、継続的なケアの必要性を強調しています。ボランティアとしてこのプログラムの手伝いをした Aseel Abu Ghazaleh さんと

Kholoud Shweiki さんは、「紛争下に住む子ども達は自らの人生を十分に楽しめているのか疑問に感じます。また子ども達自身が、自らの自由や権利は守られるべきものだとの認識ができる環境が必要だと思えます。子ども達はもっと笑顔でいるべきです。」と述べています。

このプログラムは、東エルサレム YMCA のリハビリテーション・プログラムの一環としてユニセフとのパートナーシップの下、東エルサレム地域とヘブロン地域にて実施されました。



原文：[Advocacy campaign and festival to raise awareness on children's rights](#)

「ピースワーク・プログラム」の参加者、再び集まる

2015年2月17日 ヨーロッパYMCA同盟

「ピースワーク・プログラム」に参加した16か国のユース35名が、2015年2月8日～14日にハンガリー・ブダペストに再集結しました。

「ピースワーク・プログラム」は、ヨーロッパYMCA同盟の「和解の礎」プログラムの一環として、2012年～2013年にかけて、各期1週間で3回行われました。第1期は2012年10月にトルコ・イスタンブール、第2期は2013年6月アルメニア・エレバン、第3期は2013年12月フランス・strasbourgにて実施されました。

このプログラムは、体験型学習を通じ平和を構築するユースの育成を目的としています。紛争の被害を受けたヨーロッパ諸国出身のユース達が、国境を越えて平和を構築していくために、所属している



地域や組織で自らがリーダーシップを発揮し、変革者となることを期待されています。各期では、ディスカッションやロールプレイング、講義や個人への評価等が行われました。それらを通して知識、スキル、意欲などを身に付け、各期の合間に各自の所属する団体や地域において行動を起こすことが、ユースに求められています。

再度集まったユース達は、プログラムの本来の計画と成果について振り返りを行ったり、実際にユースが

行った取り組みの成功事例などを共有し、下記の様な取り組みが実施されました。

- ・ 参加者に事前に与えられた個別評価に基づいてプログラム全体とその効果について評価を行った。
- ・ 「ピースワーク・プログラム」がこれまでに築いてきた独自のカリキュラムや、意見を述べやすい雰囲気作りは今後も受け継がれるべき大切な価値として確認した。
- ・ ソーシャルメディアを題材にしたワークショップでは、SNS などの影響力の大きさを活かした平和の価値観や文化を対話を通して共有できることを学び、今後の継続的な活動のヒントとなった。

——参加したユースの感想

紛争の影響下にある他の国の人達がどんな気持ちでいるのかを知ることができました。国境を越えて互いを理解し合うことで、地域・国家・NGO などそれぞれの役割や協働の道筋が見えてくるものだと思います。 Iuliia さん、ウクライナ



プログラムの中で話された一つ一つの話や、YMCA の活動についての話に、とても刺激を受け、NGO が取り組む様々な課題にもっと関心を寄せたいと思いました。また、商業的な実利主義が私の周りにもあるということが分かりました。プログラムでの学びや出会った人達から影響を受け、私がこれからどんな仕事をしたいか、人生の目標について考えるきっかけができました。 Ivana さん、セルビア

このプログラムを通じ私自身にできることを考えて、まずは所属する団体の仲間に提案してみました。するとその提案に興味を示して受け入れてくれました。私は平和を軸に、まさに活動を始めたところです。変化を起こすことは簡単ではなく努力も必要だということが分かりました。 Aleksandra さん、マケドニア

平和、愛、忍耐、そして紛争を解決へと導くために努力する人達が大勢いる新たな世界へと、YMCA によって導かれた気がしています。 Christina さん、キプロス



原文：[Peace Work Institute Reunion](#)

ユースが「ポスト 2015 年開発アジェンダ」の政策担当者に提言

2015 年 3 月 15 日 Y Care Internatioanl

International Citizen Service (ICS)ⁱ のユースボランティアとして活躍する、Peri MaCrae さん、Tom Starkey さん、Cara Burnett さんは、イギリス・ロンドンで行われた「ポスト 2015 年開発アジェンダ」ⁱⁱ に関するイベントに出席し、イギリスの政策担当者に市民としての期待と意見を直接伝えました。

3 月 9 日にイギリス・ロンドンのセントラル・ウェストミンスター・ホールにて行われたこのイベントには、関係団体や政策担当者が約 80 名が集まり、イギリス政府の国際開発担当政務次官の Baroness Northover 氏も参加しました。

ユースボランティアの Tom さん (26) は、ICS の活動の一環としてアフリカのリベリア YMCA にてスラム街に住む人たちをサポートする約 3 か月のプログラムに参加しました。Tom さんはこのイベントの最中、ゲストスピーカーを紹介する役割も担い、さらには複数の会議や政策に関する意見交換に参加しました。Peri さん (21) さんはトーゴにて、Cara さん (21) は昨年セネガルにて 3 か月間活動を行っていました。

このイベントは、「ポスト 2015 年開発アジェンダ」の枠組みが具体化される直前であり、3 名が各々の活動を行う中で、「ポスト 2015 年開発アジェンダ」に関して抱いた疑問や意見を、直接政策担当者に伝える貴重な機会となりました。

Tom さんの感想：

「国際開発に携わっている他の団体や、政策担当者と直接話しをすることができたことをうれしく思っています。政策が実際の現場にどう反映されているかを知る貴重な体験となりました。

また、『ポスト 2015 年開発アジェンダ』の政策調査官の Sarah Nelson 氏と話すことができました。『ミレニアム開発目標』と『持続可能な開発目標』ⁱⁱⁱ が推進される中、その成果の評価は各国の団体の能力によって大きく左右されるため、とても難しいのではないかと質問をしたところ、各関係者がより効果的に成果を評価できるように、データの管理等のあり方を見直していることを聞くことができました。ICS のプログラムを通してアフリカで実際に経験したことが、ジェンダーの不平等や伝染病の拡大予防についての私達の主張に、真実味と緊迫感を与えてくれました。」

ICS での経験は、3 名のユースが自信を持って政策担当者と話すきっかけとなりました。

同日中に、イギリスの国際開発の担当者の Merry Cregg 下院議員は NGO 側の話を聞くだけでなく、「ポスト 2015 年開発アジェンダ」に関連した労働党の方針を提示しました。

Y Care International は、格差、不平等、貧困、異常気象を世界から撲滅させるために、世界のリーダーに働きか



けるキャンペーン活動の「アクション／2015」^{iv}に参加をしています。全ての若者が教育と健康的な生活を手に入れることができるよう、若者の声に耳を傾け、他の団体と協力をしながら今後も活動を進めていきます。

原文：[ICS volunteers meet decision makers to debate post 2015 goals](#)

同様の活動は、下記でもご覧いただけます。（英文のみ）

[Young people have their say on a new world](#)

[Youth Voices on a Post-2015 World](#)

ⁱ 国際協力活動を専門とするイギリスにある YMCA の一つ Y Care International が実施する、ユースの為のプログラム。より良い社会を創るため社会的に弱くされた人達の為に、イギリス国内外の YMCA をはじめとする民間団体等において 10-12 週間ユースが活動をします。

ⁱⁱ 「世界では飢餓と貧困に何十億もの人々が苦しんでおり、適切な食料、飲料水、教育や保健サービスを受容できずにいます。環境破壊や汚染、HIV・エイズ、そして情報格差といった地球規模の問題も広がっています。2000年9月、これらの問題に対応するため、国連は国連ミレニアムサミットを開催し、「極度の飢餓・貧困の撲滅を含む開発分野での国際協力について8つの目標からなる、ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）を策定」しました。MDGsの達成期限は2015年とされ、その達成期限が迫る中、「ポスト2015開発アジェンダ」が「2015年以降の新たな国際的開発目標」として策定される予定です。（国際連合日本政府代表部ホームページより一部抜粋 http://www.un.emb-japan.go.jp/ip/topics/MDGs_and_Post_2015.html）

ⁱⁱⁱ 「持続可能な開発目標」は、ミレニアム開発目標の達成期限を迎える中で、ポスト2015開発アジェンダに関連して、特に気候変動や生物多様性の保全、持続可能な食糧及び水の保全などがテーマとなっています。

^{iv} 詳しくは <http://www.ugokuugokasu.jp/action2015jp/index.html> をご覧ください